

# 平成21年度 FD・SD宿泊セミナー

FDワークショップ「大学教員として備えておくべき資質：シラバスから成績評価まで」

進行役

理工学研究科生命科学専攻

青塚正志

# 本ワークショップの進め方

- シラバスから授業評価まで、授業実践に関するいくつかの項目について質問をさせていただきます。
- 配付用紙に回答(意見)を記入し、その後にご発言ください。
- 串本先生に、皆様のご意見を板書していただきます。
- 提出されたご意見について、活発な意見交換をお願いしたいと思います(皆様と私のやり取りではなく)。
- それぞれの質問項目について、私が「正解」を述べて次項目に移る、という進行は期待なさないように。
- パワーポイントのスライドは、資料としてワークショップ終了後に配付いたします。
- 本ワークショップが今後の皆様のご授業実践のお役に立つことができるかできないかは、活発な意見交換が行われるか否かにかかっています。
- どうぞよろしくお願いいたします。

# 1. シラバス

「日本のシラバスは教員がやることが書いてある。なにを教えるかという内容が書いてある。アメリカのシラバスは、学生が何をしなければいけないか、ということが書いてある。全然違う。シラバスに対する認識が随分ずれているわけです。」

2008年度 FD・SD宿泊セミナー（クロスロード7号）  
国際基督教大学名誉教授・元学長 絹川 正吉

# 首都大学東京 シラバス様式

首都大学東京		科目種別		単位数	指定科目 クラス指定科目
東京都立大学		科目種別		単位数	指定科目 クラス指定科目
担当教員		(期)	(曜日)	時限)	
<p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容</p> <p>④テキスト ・参考書等</p> <p>⑤成績評価方法</p> <p>⑥特記事項</p>	<p>① 陸上植物や動物を対象にしなが、生物を分類し、生物相互の系統関係を解析する際の基礎的理論やその方法を解説するとともに、動物や植物の系統進化、多様化と地理的分布との関連、種分化の様式などについて概説する。</p> <p>② 生物の多様性を理解し、そして体系化するための最も基礎的な知識や概念の習得を目標とする。講義の前半は植物を対象にしなが、多様性を記述するための分類学的手法や基本的ルール、陸上植物の起源と進化、植物における種分化の様式などについて理解してもらう。後半は動物を対象にしなが、その分類方法と系統関係の推定法、および主要なグループの特徴を理解してもらう。</p> <p>③ 前半と後半、それぞれの講義項目は以下のことを予定している。</p> <p>前半：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植物の多様性と分類学</li> <li>2. 植物の学名と国際命名規約</li> <li>3. 種と自然群の認識</li> <li>4. 陸上植物の起源と進化—陸上への進出とそれに対する適応</li> <li>5. 陸上植物の起源と進化—孢子形成から種子形成へ、</li> <li>6. 陸上植物の起源と進化—花の形成とその多様化</li> <li>7. 試験</li> </ol> <p>後半：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 動物の多様性と分類学</li> <li>9. 動物の学名と国際動物命名規約</li> <li>10. 系統関係の推定法</li> <li>11. 原生動物と後生動物</li> <li>12. 無脊椎動物の多様性と系統</li> <li>13. 脊椎動物の多様性と系統</li> <li>14. 試験</li> </ol> <p>④ テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。また、参考書については、講義のなかで適宜指示する。</p> <p>⑤ 前半と後半に行う試験の合計と出席点等によって評価するが、試験での評価は全体の80%とし、残り20%は適宜行うレポートと出席点で行う。授業時間だけの学習では不十分なので、講義のあとは資料をもう一度みたり、参考文献等で必ず補習しておくことが必要である。</p> <p>⑥ 授業中にわからなかったことはそのままにしておかず、講義のあとや時間のあいた時に研究室を訪問して学習しておくこと。</p> <p>また、本講義は系統分類学各論IおよびIIにつながる講義であるので、各論の履修予定者は本講義を履修しておくことが望ましい。オフィスアワー(〇〇：水曜日13:00～15:00； △△：水曜日10:30～12:30)を設けているので、質問等ある方はこの時間も利用してほしい。</p>				

## 首都大学東京シラバス 記載項目

- ① 授業方針・テーマ
- ② 習得できる知識・能力や, 授業の目的・到達目標
- ③ 授業計画・内容
- ④ テキスト・参考書等
- ⑤ 成績評価方法
- ⑥ 特記事項

⇒ 本学のシラバスは, 「教員がやること」, 「学生が何をしなければいけないか」, の両方を記述することが可能な様式

**Q1: シラバスの目的と意義とは？**

# 学生の履修科目選択の指針 授業内容への興味

H20授業評価アンケートSE

問9:この授業の選択にあたってシラバスが役に立った

都市教養プログラム

前期 3.23

後期 3.27

- |   |           |
|---|-----------|
| 5 | 強くそう思う    |
| 4 | そう思う      |
| 3 | どちらともいえない |
| 2 | そう思わない    |
| 1 | 全くそう思わない  |

⇒ シラバスの記述が不十分なのでしょうか？それとも、学生は、内容よりも履修しやすい時間割枠などを優先しているのでしょうか？

# 学生の履修科目選択の指針

## どのような知識や能力が修得できるのか

H20授業評価アンケートSE

問7: シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた

科 目	前期	後期
都市教養プログラム	3.24	3.26
理工共通基礎	3.09	3.10
情報リテラシー	3.47	
基礎ゼミナール	3.39	

⇒ 実践的なスキルを教える情報リテラシー, 基礎ゼミナールは, やや高いスコアですが, 全体としては学生は「どちらともいえない」の評価. シラバス記述内容が「誇大宣伝」なののでしょうか? それとも「抽象的すぎる」のでしょうか?



# 学生の学習計画の指針

## 授業外学習を含めた学生の学習計画の指針

H20授業評価アンケートSE

問5: 授業時間外で1週間にどのぐらい、この授業に関連した学習をしましたか？

科 目	前期	後期
都市教養プログラム	1.55	1.51
理工共通基礎	2.24	2.30
情報リテラシー	1.81	
基礎ゼミナール	2.32	

2時間程度－90分程度－1時間程度－30分程度－ほぼ0時間

⇒シラバスは「単位の実質化(1単位45時間)」実現のために重要であるとの認識が必要と思われます。

# シラバスの目的と意義

- 学生の履修科目選択の指針
- その科目について、学生の学習計画の指針
- 教員と学生との契約書
  
- その科目について、教員の意識向上
- その科目について、授業の進行状況の確認
- シラバスをWeb上で公開するなどにより、開かれた大学として、行われている教育について社会への情報提供.
- 授業内容について教員相互の認識と調整.

## シラバスについて、一言

- 半年～1年後に開始される講義について、前年度10月にシラバス作成が求められるため、多少おざなりになってしまいがちです。（校正時の変更は可能。これを活用してほしい）
- 第1回目の講義において、シラバス記載事項の確認と訂正
- シラバスは教員のためにあることもお忘れなく

## 2. 授業の実践

Q2 受講生は授業においてどのようなことに不満を抱くのだろうか？

⇒教員は、学生の不満から、授業実践に必須なスキルの不十分さに気づき、改善・向上に励まなければなりません。

# 授業アンケート評価SE自由記述などにおいて、学生が漏らす不満

説明がわかり難い

学生への対応が悪い

内容が難しすぎる, 易しすぎる

板書が汚い

配布プリントが読みづらい, 見づらい

学生に質問しすぎ(うざったい), しなさすぎ(一方通行)

注意しない(遅刻, 私語などに対して)

遅刻する, 休講が多い

授業内容とは関係の無い話が多い

# 説明のわかりやすさ

## H20授業評価アンケート

### 問3 教員の説明はわかりやすかった

		都市教養プログラム		理工共通基礎	
		前期	後期	前期	後期
SE	全体	3.63	3.63	3.19	3.24
	非満足群	2.96	3.01	2.62	2.72
	満足群	4.14	3.81	4.00	4.02
TE		4.17	4.33	4.07	4.00

⇒非満足群と満足群との間に大きな差。「わかり難い」→「不満足」

# 学生への対応

## H20授業評価アンケート

### 問3 教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた

		都市教養プログラム		理工共通基礎	
		前期	後期	前期	後期
SE	全体	3.50	3.50	3.39	3.41
	非満足群	3.09	3.07	2.97	3.00
	満足群	3.81	3.85	3.99	4.00
TE		3.94	3.91	4.14	4.16

⇒非満足群の学生には、教員の努力が伝わらない

Q3 「説明のわかりやすさ」, 「対応」の評価向上のために留意すべきこととは？



# 「説明のわかりやすさ」, 「対応」の評価向上のために留意すべきこととは？

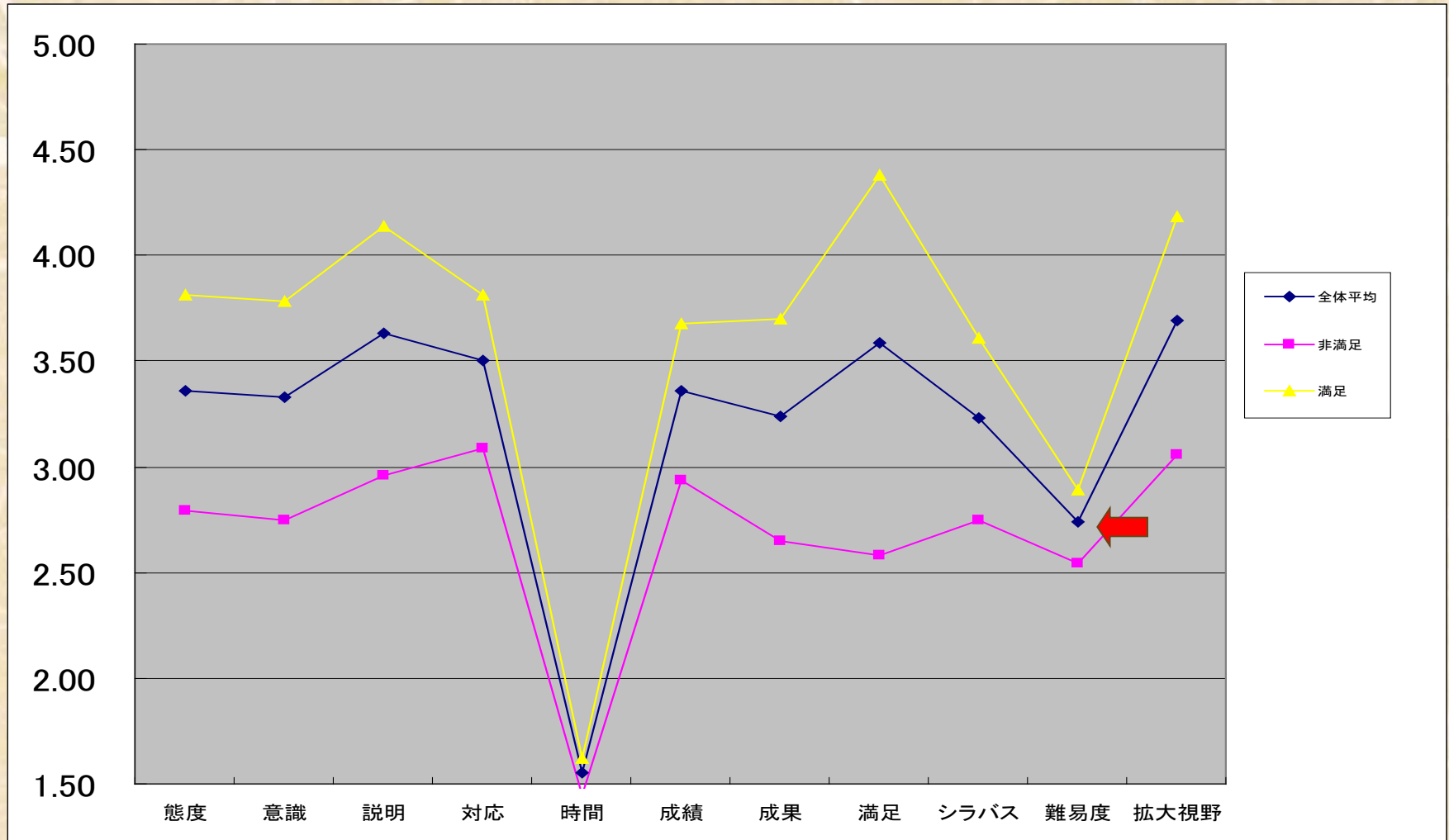
- 適切な声量で, 明快地, 適切なスピードで, 単調に陥らず, 受講生に顔を向けて.
- 学生の理解度, 力量を推し量り, それに見合った説明, 対応を.
- 10を知り, その中の1を説明に用いるぐらいの余裕が大切.
- 教員と学生の信頼関係の構築が最も重要.
- 的外れの質問(回答)であっても, 決してネガティブな反応をしないこと.
- 「もっと勉強しなさい」「質問する前に調べなさい」は・・・

# 難易度

## Q4 授業の難易度と学生の満足度との関係

# 講義の難易度と満足度

H20年授業評価アンケートSE 都市教養プログラム(前期)



易しい(5) - やや易しい(4) - 丁度良い(3) - やや難しい(2) - 難しい(1)

# 難易度

- 難しすぎる, 易しすぎる, が満足度と直結しているわけではなさそう.
- 平均して2.5から2.9(丁度良い~ほんの少し難しい).
- 「丁度良い」=「適切な難易度」なのか?  
「丁度良い」の評価に教員は満足してはいけないのでは?
- 大学教育の真骨頂は, 学生が難しさに挑戦し, 乗り越えていくことにあるのでは?
- 教員は難しい項目ほど, 受講生の知識の程度, 理解の程度を確認しながら授業を進め, また, より丁寧かつ平易に解説するスキルを鍛錬すべきでしょう.

### 3. 成績評価

H20授業評価アンケートSE

問6:成績評価法について十分な説明があった

	前期	後期
都市教養プログラム	3.36	3.37
理工共通基礎	3.29	3.33

⇒シラバス記述項目⑤, 初回授業での詳細な説明によって, 受講生への周知の努力を継続して行う必要があります.

## 成績評価

Q5 成績評価の目的は何か

Q6 受講生が納得感を持つことができる成績評価(法)とは？

# どのような成績評価に学生は納得感を持つのか

- 成績評価(法)について十分な説明  
出席○%, 試験△% という配分だけではなく, その科目の目的に照らした具体的な評価基準(それについての教員の考え方)を明確に伝えることが必要と思われる.
- 学生は多面的な評価を期待している?  
取組み姿勢(出席率, 受講態度など)  
理解度  
努力賞も?
- 公正かつ厳正な評価基準を崩さない
- 成績資料の保管
- 適切な成績分布  
例えば, 評価が全員5, 全員3のような場合, 納得感は得られない?

## 4. その他授業担当にあたって

- 高等学校と大学の教育の違い  
受動的学習姿勢からの脱却, 必要以上に急かさない.
- 学生は教育に即効性を求める. 一方, 教員は即効性を求めてはいない. そのギャップを如何に埋めていくか.
- 自分が受けてきた講義のイメージを押し付けないこと
- 人間に, 人間関係に興味を持ちましょう
- 個性の豊かさは, スキル不足を補うこともあります.